

## 天皇陛下靖國神社御親拝祈願全国巡拝

### 【趣旨】

本年一月十日政府が畏れ多くも天皇陛下の御意向を受け、平成を二十年の節目で区切るという案が浮上した。それに便乗して皇室典範の変更、女性宮家、女系天皇までも日論む輩が蠢いている。多くの問題を孕んだ「節目」であるが、最大の問題は、国難に殉じ尊い命を捧げた忠霊との約束が一切粗上に上らないことである。

政治の世界、一部報道機関では「富田メモ」なるものを真実とし、昭和天皇の御親拝が昭和五十年で途絶えたのは昭和五十三年の昭和殉難者（所謂「A級戦犯」）の合祀が原因であるとしている。

昭和五十年八月十五日三木武夫首相が靖國神社参拝に際し「私人」という詭弁を用いたことで「公人」の参拝が憲法問題にできることを時の首相が知らしめた。その年の十月二十日御親拝前日、第七十六回参議院内閣委員会において社会党野田哲、秦豊、矢田部理に長時間に亘り御親拝が憲法問題であると吊るし上げられたのが、当時宮内庁次長富田朝彦である。このことが宮内庁をはじめ関係省庁のトラウマとなり四十二年間の空白を生んでしまった。決して、巷間云われる昭和殉難者の合祀が原因ではない。その証拠に昨年八月八日の陛下の御言葉、冒頭に現憲法下での象徴としての立場に言及あそばされている。春秋例大祭に勅使が差遣され皇族方の参拝も途切れたことがない。

我々国民は御即位以来、慰霊に最も御心を遣わされた御姿を拝見している。その御姿は言葉にできない感動で忠霊をはじめ戦友、遺族、国民を慰められた。

天皇とは何か、天皇とは「祈り」である。人類史上例を見ない征服王ではない「祈り」をもって大和民族を導いた尊い存在なのである。祈りあればこそ、我が民族は「一旦緩急あれば」と激動の時代を乗り切った。そして歴史は繰り返す。戦争は避けることができればそれに越したことはないが、望まなくともやってくる。民族の誇りの為に散華された忠霊に御親拝賜ることは、備えでもある。

### 【ご協賛のお願い】

弊會では靖國神社春季例大祭後、事務局長沼山光洋が全国護國神社五十四社（靖國神社含）を巡拝いたします。一社一社地元の有志の方々と参拝しネット（ホームページ・ブログ・フェイスブック・ツイッター！インスタグラム）を通じ署名を集め、ひとりでも多くの国民に啓蒙し一日でも早い御親拝実現を安倍晋三首相に求めます。本来ならば、靖國神社御創立百五十年の節目となる平成三十一年が相応しいかとおもいますが、平成が三十年までと時間が限られてしまうかもしれません。

明治天皇の思し召しで御創立された靖國神社御親拝が憲法に抵触するのであれば、それは占領下で作られた憲法の間違いであり、それを利用する政治勢力の詭弁であり、民族の意思ではありません。陛下の御心は我々国民とひとつであると信じております。

大変厚かましいお願いではありますが、弊會には経済的余裕が無く、皆様からご協賛いただき皆様ひとりひとりのまごころと共に全国護國神社を巡拝し、祈りをもつて国難に殉じた忠霊のみたまに報いたいと存じます。皆様の「ご協賛衷心よりお願い申し上げます。

「ご協賛いただいた皆様のお名前・金額等ホームページ  
機関紙等で公表させていただきます。

「ご希望されない場合「匿名希望」または、ペンネームでもご自分が確認できるものであれば構いません。

例・東京都千代田区・靖國太郎二万円

このような表記になります。

平成二十九年三月吉日

靖國會

東京都千代田区平河町二一四一七清瀬会館

事務局長 沼山 光洋

102-0093 携帯〇九〇―三二〇五―二〇三〇

郵便振替口座

00100-2-584598

靖國會事務局

ホームページ

<http://yasukunikai.com/>

ブログ

<http://yasukuni.jugem.jp/>

フェイスブック

靖國會靖國忠霊祭で検索

ツイッター

gosinpaikiganまたは靖國會で検索

インスタグラム

gosinpaikiganまたは靖國會で検索